

平成 30 年 5 月 18 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03160

研究課題名(和文)人口減少社会日本における宗教とウェルビーイングの地域研究

研究課題名(英文)Regional Studies on Religion and Well-being in depopulating Japan

研究代表者

櫻井 義秀 (SAKURAI, Yoshihide)

北海道大学・文学研究科・教授

研究者番号：50196135

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、人口減少社会の日本において宗教がウェルビーイングに果たす多様な役割を考察する調査研究、国際研究集会の実施、出版活動を行った。特に、過疎地域の寺院・神社・教会では衰退する施設がある一方で、信徒と地域を結ぶ社会事業の工夫によってソーシャル・キャピタルを醸成する役割を果たすところもあることが確認された。そして、櫻井義秀編『しあわせの宗教学』の刊行によって、当該領域の研究を関係者に周知できた。

研究成果の概要(英文)：This research aims to study how Japanese religions function on the well-being of regional residents who suffer industry decline and depopulation, by social survey, holding international workshops, and publishing influential papers and the book, *Shiawase no shukyogaku (Religious Studies on Well-being)* from Hozokan publishing. Main finding is that although religious corporations such as a temple, shrine, and church declined due to aging of members and regional depopulation, some religions functioned to make social capital in regions by social actions which involved residents into religious events and members of religions into regional activities in reverse.

研究分野：宗教社会学

キーワード：過疎 寺院 神社 キリスト教会 ウェルビーイング 死生観 人口減少社会

## 1. 研究開始当初の背景

ウェルビーイングの研究領域は、成長と家族、労働と近隣交際、精神的健康と老年期の生きがい、経済状況や社会政策・社会保障との関わりなど多岐にわたる (Cooper & Cooper and Burton, 2014)。とりわけ、近年は well-living と対をなす well-dying が、尊厳死や終末期医療と関連させて論じられる (Byock, 1997)。日本ではスピリチュアル・ケアや死生学として発達した領域であり (窪寺 2000; 『死生学全 5 巻』東京大学出版会) 研究代表者は北海道死の臨床研究会において緩和ケアと患者のウェルビーイングという課題に取り組んできた。

しかしながら、死生学や緩和ケア、終活や葬送の選択における当事者による納得した生の終え方の研究や実践では、生活の質を確保し、よく生きるためのウェルビーイングの研究や実践、もしくは社会保障や福祉との接合が十分になされてこなかった。しかし、現代は多元化・多文化社会における包括的なウェルビーイングとスピリチュアリティとの接合を企図する研究が始められている (Canda and Furman, 2009)。人口減少社会日本において、個人のライフコース上において精神的な健康を維持・増進するような価値意識・社会関係 (総称的にメンタル・キャピタルとする) は何であるかを、家族・地域社会の結節点として機能してきた伝統宗教に着目しながら研究してきたのが、筆者による人口減少地域における宗教研究である。

文献 Cooper & Cooper and Burton, 2014, Wellbeing: A Complete Reference, Wiley-Blackwell. Ira Byock, 1997, Dying Well, Riverhead Books. 窪寺俊之 2000 『スピリチュアルケア入門』三輪書店. Canda, Edward and Furman, L.D., 2009, Spiritual Diversity in Social Work Practice: The Heart of Helping, Oxford Univ. Press.

## 2. 研究の目的

多元的な日本宗教の特徴に配慮した研究領域を設け、現代宗教がウェルビーイングに果たす多様な役割を考察する。死生観を含む基層的な宗教文化において先祖祭祀・供養が家族のつながりに果たす役割。神社の祭礼や芸能が地域の互助共同に関わる役割。宗教を普段意識しない市民においてみられる「おかげさま」の感覚や震災復興と祭礼挙行の役割。伝統教団である神社・寺院が人口減少地域においてなお社会関係の結節点として機能し、神職や住職が地域維持に果たす役割。過疎地域において僧侶の月忌参りが地域高齢者の見守りになる事例は多い。地域を越えて信徒組織を拡大するキリスト教や新宗教が教団内の互助活動を超えて市民社会で果たす社会事業の役割。Faith based NPO の活動は日本でも活性化している。国家間、利害集団の対立に対話と融和を働きかける教派・宗門組織の役割も平和という高次のウ

ェルビーイングに不可欠である。このような複層的領域研究を共同で行うことで次のような成果が得られる。

本研究の独自性は、ウェルビーイングに価値観や死生観、共同の関係組織 = 宗教の関わりを加え、現代宗教の社会創造的な役割を提言すると共に、従来の意識調査による計量研究や個別的な事例研究では十分に配慮されなかった地域社会とメンタル・キャピタルの観点から社会のあり方を構想することにある。

## 3. 研究の方法

本研究の時代・地域設定は人口減少社会日本というユニークなものだが、ウェルビーイングの研究はユニバーサルデザインでなされており、欧米・アジアとの理論・実践面における比較の視点が重要である。本研究では、ウェルビーイングと宗教の研究を海外の研究者から外部評価してもらうことを念頭に (各年で国際ワークショップを実施)、グローバル化や個人化の問題が顕著に現れる地方の実情から地域社会と人々のウェルビーイングに貢献する福祉・宗教・自治体/民間組織のコラボレーションを調査し、ウェルビーイングにメンタル・キャピタルの視点を入れた現代的幸福論を提言することにした。

## 4. 研究成果

年度ごとに記載する。

[2015]

2015年11月21日にウェルビーイングの日韓比較に関する国際ワークショップを北海道大学で開催し、韓国大邱医科大学保健福祉学部長の Yoo Wangkeun 氏と東西大学日本研究センター・研究教授の李賢京氏から韓国のウェルビーイング研究の現状について報告を受け、北海道大学の櫻井義秀とカロラ・ホメリヒの2名が日本側からリプライする総合討議と、科研メンバーの研究発表を中心とした研究集会を開催した。

分担研究者による調査研究は次の通り。

川又俊則は三重県伊賀市・伊勢市他で子ども会や塾など檀家や地域の人びとに長年寺院を開放している事例、京都府亀岡市で複数会堂を複数牧師が担当する実態、北海道千歳市・室蘭市他で北海教区の共同牧会の歴史と現況を調べた。

平藤喜久子は、研究代表者の櫻井と北海道大学チームと一緒に山形県庄内地方の寺社について調査を実施し、檀家数 12 戸の真宗大谷派寺院を複数回調査した。

猪瀬優理は、福井県福井市光照寺で実施された永代経の参与観察、広島県三次市作木町にて地域住民対象の調査票調査を行った。

冬月律は、高知県高岡郡旧窪川町の折合集落を対象に集落と神社信仰を調査した。

片桐資津子は、高齢者ケア施設の管理職を対象にスピリチュアルなニーズへの対応、ケ

ア現場におけるケア労働の実態、地域社会と当該施設の関係について調査した。

板井正齊は岡山県美作市上山集楽、徳島県三次市馬場、広島県東広島市河内杉森神社で調査した。

寺沢重法は宗教と心理的ウェルビーイングに関して欧米の論文でレビューを行った。

[2016]

代表者の櫻井はホメリヒ、清水と一緒に調査票調査の設計を行った。日本リサーチセンターによる多段階無作為抽出法全国調査に組み込み、面接法で 1200 人の有効回答を得た。なお、実施時期は 2017 年にずれこんだ。また、個別調査を生かした共同研究を日本宗教学会のパネル「宗教とウェルビーイングの比較宗教社会学」とした。

分担研究者の個別調査は下記の通り。

片桐資津子は米国ワシントン州シアトルとオレゴン州ポートランドにおいて、尊厳死の支援組織の関係者を対象に調査した。

板井正齊は島根県浜田市・奥出雲市の神社宮司と氏子関係者へ調査を行った。

川又俊則は苫小牧弥生教会、丹波新生教会園部会堂で共同牧会の調査を行った。

平藤喜久子は研究代表者と山形の寺院調査の他、神話学文献から研究を行った。

猪瀬優理は宮崎市で樹木葬を行う浄土真宗本願寺派寺院と広島県三次市寺院調査を行った。

冬月律は高知県吾川郡旧仁淀村集落と神社信仰の現況について調査研究を実施した。

李賢京は韓国珍島、光州、ソウルにて「セウォル号沈没事故」における宗教者・団体の活動について調査を実施した。

[2017]

7 月に香港中文大学の中野リン教授を招いて、北海道大学と香港中文大学の合同ワークショップを開催し、中野教授、ホメリヒ・櫻井、両大学の大学院生が日本、香港におけるウェルビーイングの比較研究を行った。

代表者の櫻井はホメリヒ、清水と一緒に調査票調査を行い、分析を継続している。その成果をワシントンの Pew Research Center の国際ワークショップ Survey Research and the Study of Religion in East Asia において、Religion and Wellbeing: Viewpoints and Perspectives of Recent Research in Japan として発表した。

「性比、世代、年齢、家族構成や世帯収入などの社会的属性の影響を除いて、どの程度宗教的行為が主観的幸福感に影響しているのか」という問いに対して、3 点の知見を得た。

1) 日本の宗教行為は、制度、慣習、スピリチュアルの分類が可能。

2) 制度的宗教と慣習的宗教は、宗教行為をなす人の幸福感を増加させている。

3) スピリチュアルな宗教行為は、宗教行為をなす人の幸福感を減少させている。

先行研究との関連は下記の通りである。

1) 欧米のキリスト教会型宗教は、ウェルビーイングを促進する機能が確認された。

2) アジアの宗教性・宗教行為は、両義的機能がかった。

3) 今回の調査により、日本の宗教行為に関して、両義的機能を確認した。ただし、なぜ、慣習的宗教行為がウェルビーイングを促進するのかに関してはさらなる説明が要る。

また、研究成果の中間報告として櫻井義秀編、法蔵館、『しあわせの宗教学 - ウェルビーイング研究の視座から』345 頁の編集を行い、2018 年 2 月に刊行した。

分担研究者の個別調査のフォローアップを行うとともに、2018 年度最後の時期から最終報告書となる二冊目の著作を分担執筆する準備に入っている。2019 年に櫻井義秀編、北海道大学出版会、『宗教とウェルビーイング』刊行を予定している。

[総括]

本研究の調査目的・方法に則して下記のよう成果を得た。

ウェルビーイングと宗教の研究を海外の研究者から外部評価してもらうことを念頭に国際ワークショップを実施に関しては、2015 年に韓国、2017 年に香港から研究者を招いて北海道大学にて国際ワークショップを開催した。また、2016 年には国際宗教社会学会 ISSR のローザンヌ大会にて、東アジアの宗教と公共性・社会参加にかかるテーマセッションを 3 つほど共同で主催した。東アジアと西欧におけるウェルビーイングの比較の視点を得られた。加えて、アメリカの尊厳死にかかる調査と日本における人生の最終段階の医療・スピリチュアルケア、慰霊の問題を対照される視点を得られた。

グローバル化や個人化の問題が顕著に現れる地方の実情から地域社会と人々のウェルビーイングに貢献する福祉・宗教・自治体/民間組織のコラボレーションを調査することに関しては、分担研究者が人口減少地域の寺院・神社・教会における宗教施設の維持方法、信徒や地域の人々の宗教意識にかかる調査を実施し、成果報告としてまとめている。

ウェルビーイングにメンタル・キャピタルの視点を入れた現代的幸福論を提言することに関しては、法蔵館から『しあわせの宗教学』という一般市民、宗教者、宗教学者に広く読まれる本を制作することができ、刊行後数ヶ月で、中外日報、仏教タイムス、キリスト教新聞、グローバル天理、神社新報、共同通信において書評を得ることができた。啓蒙普及の役割を果たせたと考える。

総じて、3 年間の基盤 B 研究としては十分な研究成果をあげている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 18 件)

川又俊則、現代宗教動向：伝統宗教集団のライフ・シフト 社会減から自然減へ向けた対応、現代宗教 2018、査読無、2018、227-248

櫻井義秀、特集 主観的ウェル・ビーイングへの社会的アプローチ 人は宗教で幸せになれるのか、理論と方法、査読有、32(1)、2017、80-95、<https://doi.org/10.11218/ojjams.32.80>

櫻井義秀、論説 宗教は人をどのくらい幸せにするのか？ - 日本人の幸福感と宗教、宗務時報、査読無、121、2017、1-19

Jun Kobayashi and Carola Hommerich, Are Happiness and Unhappiness Two Sides of the Same Coin? An Analysis of Happiness and Unhappiness, 理論と方法、査読有、32(1)、2017、49-63、<https://doi.org/10.11218/ojjams.32.49>

Yuri Inose, Gender and New Religions in Modern Japan, Japanese Journal of Religious Studies, 査読有、44(1)、2017、15-35

川又俊則、教団会計と意識調査にみる人口減少時代の維持困難さ—経済的側面を中心に、宗教研究、査読有、389、2017、99-124

Carola Hommerich and Tim Tiefenbach, Analyzing the Relationship between Social Capital and Subjective Well-Being: The Mediating Role of Social Affiliation, Journal of Happiness Studies, 査読有、18、2017、1-24、DOI: 10.1007/s10902-017-9859-9

李賢京、災害時宗教には何ができるか？—「セウォル号沈没事故」における韓国の宗教団体を事例に、比較民俗研究、査読無、31、2017、1-15

片桐資津子、活動的高齢女性の生きがい獲得とその変遷—内省と創発の概念に注目して、ソシオロゴス、査読有、40、2016、17-40

川又俊則、超高齢社会を先導するキリスト教界—老年期牧師を中心に—、福音と世界、査読有、71(9)、2016、22-27

櫻井義秀、特集論文 現代東アジアの宗教をどうとらえるか、日中社会学研究、査読有、24、2016、30-44

寺沢重法、『宗教と社会貢献』の研究動向の概要、宗教と社会貢献、査読有、5(2)、2015、43-57

Shigenori Terazawa, Multi-Dimensional Religiosity and Volunteering in Contemporary Taiwan: Analyses of the Taiwan Social Change Survey, Asian Journal of Social Science, 査読有、43(4)、2015、466-487

寺沢重法、台湾における宗教性とボランティア活動—台湾社会変遷基本調査の分析—、北海道大学文学研究科紀要、査読無、146、2015、295-317  
DOI: 10.14943/bgsl.146.1295

片桐資津子、地域福祉の主流化とケア活動—行政と住民の仲介的役割を担うNPOの事例分析、社会分析、査読有、42、2015、63-80

冬月律、過疎地域の神社神道の現状と課題—高知県の過疎集落神社を事例に—、國學院雑誌、査読有、116(11)、2015、55-68

猪瀬優理、関係基盤としての寺院：社会関係資本論の視点をどう活かすか、龍谷大学社会学部紀要、査読無、46、2015、87-99

櫻井義秀、傾聴する仏教、宗教と社会貢献、査読有、5(1)、2015、29-53

〔学会発表〕(計 13 件)

Koki Shimizu, Does Individuals' Religiosity Contribute to Subjective Well-Being in Japanese Context?, The 4th East Asian Conference for Young Sociologists, February 5, 2018

Yoshihide Sakurai, Medicalization of natural death and restoration of human death in Japan: for sandwich generation in East Asia, 2017 HU-SNU JOINT SYMPOSIUM Sociological Reflections on Current Issues in East Asia, December 9, 2017

Yoshihide Sakurai, Religion and Wellbeing: Viewpoints and Perspectives of Recent Research in Japan, Survey Research and the Study of Religion in East Asia, October 12, 2017

Carola Hommerich, Happiness is...: A Method-Mix Approach to Japan's "Happy Youth", Section Sociology and

Anthropology, VSJF-Annual Meeting  
2017, November 1, 2017

Shizuko Katagiri, End-of-life within a  
Japanese Nursing Home, The 15th  
Annual Meeting of European Association  
for Japanese Studies (EAJS), August  
31, 2017

Shizuko Katagiri, Comparative Study  
on Administration and Locality for  
Nursing Facilities in the U.S. and  
Japan, The 112th Annual Meeting of  
American Sociological Association (ASA),  
August 12, 2017

Shizuko Katagiri, Administrative  
Functions of Nursing Homes:  
Comparative Analysis on Model Case in  
the U.S. and Japan, The International  
Association of Gerontology and  
Geriatrics (IAGG) 2017 World Congress,  
July 26, 2017

Carola Hommerich, The Generation Z in  
Japan, Workshop Generation Z: The  
Asian-Pacific Region, January 18-19,  
2017

Carola Hommerich, Broken Dreams –  
Status Anxiety in Japan's Middle Class,  
Hokkaido University – Seoul National  
University Joint Workshop 2016,  
November 24, 2016

Carola Hommerich and Jun Kobayashi,  
Why Do Happiness and Satisfaction Not  
Coincide? A Rational Choice Approach to  
Social Psychology, Third ISA Forum of  
Sociology, July 13, 2016

Shizuko Katagiri, Administrative  
Conflicts Model for Long Term Care  
Facility: Case Study on Japanese  
Nursing Homes, 2016 GSA Annual  
Scientific Meeting of Gerontological  
Society of America (GSA), November 16,  
2016

Yoshihide Sakurai, Decline of the  
Established Religions and New  
Primordial Religiosity in Social  
Engagement in Japan, 'Thematic session  
by Yoshihide Sakurai, 'Religious  
Engagement and Spiritual  
Empowerment in Asian Countries,'  
Third ISA Forum of Sociology, July 14,  
2016

Yoshihide Sakurai, Active Listening and

Well-being in Japan: Secularization of  
Engaged Buddhism to Heal Isolated  
People, 33rd ISSR Conference  
( International Society for the Sociology  
of Religion Conference ) , July 2-5, 2015

〔図書〕(計 7 件)

櫻井義秀編、法藏館、『しあわせの宗教学  
- ウェルビーイング研究の視座から』、  
2018、345

櫻井義秀、北海道大学出版会、『人口減少  
時代の宗教文化論 - 宗教は人を幸せにす  
るか』、2017、298

Carola Hommerich, London: Routledge,  
The Gap as Threat: Status Anxiety in the  
' Middle ', in David Chiavacci and Carola  
Hommerich (eds.), *Social Inequality in  
Post-Growth Japan Transformation  
during Economic and Demographic  
Stagnation*, 2017, 304 ( 37-53 ) ,  
<http://www.minpaku.ac.jp/museum/showcase/bookbite/staff/20170610kawai>

David Chiavacci and Carola Hommerich  
(eds.), London: Routledge, *Social  
Inequality in Post-Growth  
Japan Transformation during Economic  
and Demographic Stagnation*, 2017,  
304

櫻井義秀編著、北海道大学出版会、『現代  
中国の宗教変動とアジアのキリスト教』、  
2017、480

櫻井義秀・川又俊則編、法藏館、『人口減  
少社会と寺院 - ソーシャルキャピタルの  
視座から』、2016、428

櫻井義秀・外川昌彦・矢野秀武編著、北海  
道大学出版会、『アジアの社会参加仏教 -  
政教関係の視座から』、2015、442

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
出願年月日 :  
国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

櫻井 義秀 (SAKURAI, Yoshihide)  
北海道大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：50196135

##### (2) 研究分担者

川又 俊則 (KAWAMATA, Toshinori)  
鈴鹿大学短期大学部・こども教育学部・  
教授  
研究者番号：40425377

片桐 資津子 (KATAGIRI, Shizuko)  
鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教  
授  
研究者番号：20325757

板井 正斉 (ITAI, Masanari)  
皇學館大学・教育開発センター・准教授  
研究者番号：40351225

平藤 喜久子 (HIRAHUJI, Kikuko)  
國學院大學・研究開発推進機構・教授  
研究者番号：50384003

ホメリヒ・カロラ (HOMMERICH,  
Carola)  
北海道大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：60770302

猪瀬 優理 (INOSE, Yuri)  
龍谷大学・社会学部・准教授  
研究者番号：60455607

冬月 律 (FUYUTSUKI, Ritu)  
麗澤大学・外国語学部・講師  
研究者番号：70726950

李 賢京 (YI, Hyongyon)  
東海大学・文学部・講師  
研究者番号：80584333

寺沢 重法 (TERASAWA, Shigenori)  
北海道大学・大学院文学研究科・助教  
研究者番号：60632156

#### (4) 研究協力者

清水 香基 (SHIMIZU, Koki)  
北海道大学大学院文学研究科・博士後期  
課程